

水 産 業

水 産 業

本市は長良川の清流に恵まれ、アユを漁獲の中心とした内水面漁業が営まれています。なかでも、古来からの漁法を今に伝える「鵜飼」は長良川の夏の風物詩として広く知られています。また、都市の中を流れる川としては好釣場が多く遊漁場も少なくありません。

本市では、「名水百選」に認定された清流長良川の豊かな自然の恵みを生かし、春は「長良川サツキマス」夏は「アユ」秋は「モクズガニ（もみじがに）」などの季節の味覚の定着を図り、内水面漁業の振興に努めています。

「清流長良川の鮎」は平成27年12月15日に国際連合食糧農業機関（FAO）で開催された世界農業遺産運営・科学合同委員会において、世界農業遺産（GIAHS）に認定されました。

1 魚族保護対策事業

(1) ア ユ

長良川中流域では、河川状態の変化などによりアユ漁獲の変動が著しくなっています。

このため本市では4月中旬から8月上旬にかけて未成魚アユの放流及び10月中旬から11月中旬にかけて天然アユの人工ふ化を実施して、岐阜長良川を代表する水産資源の確保に努め、河川の有効利用を図っています。

カワウ対策については、岐阜県カワウ被害対策指針に基づき調整・研究を進めています。

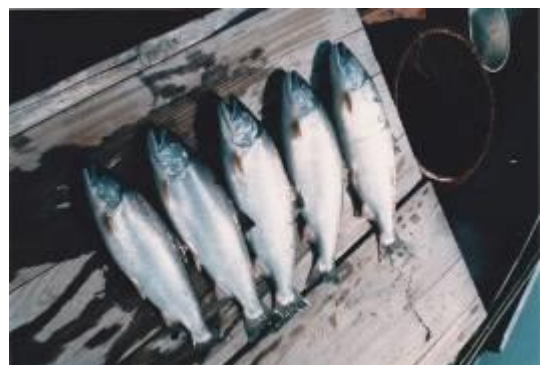


アユの放流（長良川）

(2) 長良川サツキマス

この魚は、河川上流部に分布するサケ科のアマゴの降海型です。

アマゴの多くは2年で成熟、10月中旬から11月中旬に産卵、11月から1月にふ化、翌年の晩秋には、体長15～20cm（約80g）に成長します。この時期に河川に残留・越冬する河川残留型と体を銀白色に変え海に下る降海型（銀毛アマゴ）とに分かれ、降海したアマゴは約半年間を海で過ごし、体長30～45cm（800～1,500g）の大型魚に成長、翌年の4月中旬から5月上旬に母川に遡上を始めます。長良川下流域では、さつきの咲く頃に多く捕獲されることから、昭和60年5月21日岐阜市長が「長良川サツキマス」と命名しました。



「長良川サツキマス」

(3) モクズガニ（もみじがに）

このカニは、淡水域で成長、秋に川を下り河口・沿岸部で胞卵、幼生での浮遊生活を経て稚ガニに変態、春から夏に川を遡上、淡水生活に移り脱皮を繰り返す多くはふ化後2年で成体となります。

紅葉の季節に捕獲され、ゆでるともみじのように赤くなることから、昭和62年10月8日岐阜市長により「もみじがに」と命名されました。



(4) その他

長良川下流域関係市町と長良川漁業協同組合により構成された、長良川下流域魚族保護対策協議会により、アユ・ウナギ・ナマズ・フナ・銀毛アマゴ・モクズガニ（もみじがに）などを放流し、魚族の保護と河川環境の保全に努めています。

(5) 平成30年増殖事業実績

平成30年1月1日～平成30年12月31日

(長良川漁業協同組合)

区分	魚種	計画数量	実績数量	時期	放流場所(河川名)
放流事業	アユ	Kg 3,123 (800)	Kg 3,248 (800)	4/12～6/29	長良川、伊自良川、鳥羽川
	ウナギ	Kg 415	Kg 208	4/26～10/16	長良川、犀川、境川、五六川、伊自良川、板屋川、鳥羽川、天王川
	ナマズ	Kg 180	Kg 204.5	4/19～4/26	長良川、鳥羽川、五六川、伊自良川、境川
	コイ	Kg 0	Kg 0	—	(コイヘルペス伝染予防のため、中止)
	ヘラブナ (マブナ)	Kg 2,892	Kg 2,600	12/21～12/26	長良川、境川、逆川、犀川、五六川、天王川、新堀川、鳥羽川、伊自良川、山田川
	銀毛アマゴ (長良川サツキマス魚苗)	Kg 1,210	Kg 1,210	11/29～11/30	長良川(川口堰)
	モクズガニ (もみじがに)	匹 10,440	匹 10,875	9/7～10/19	長良川、板屋川、境川、五六川、荒田川、天王川、鳥羽川
ふ化事業	アユ人工ふ化	万粒 8,200 (4,200)	万粒 8,200 (4,200)	10月～11月	長良川
	アユ産卵場造成	1か所	1か所	9月～10月	長良川
	ウグイ産卵場造成 オイカワ産卵場造成	8か所	8か所	4月～6月	長良川ほか
	モロコ産卵場造成	6か所	6か所	4月	長良川ほか

(注) () は岐阜市委託分で内数である。

(6) 平成29年漁獲高内訳

平成29年1月1日～平成29年12月31日
(長良川漁業協同組合)

魚類	区分	漁獲高		魚類	区分	漁獲高	
		漁獲量 (kg)	漁獲金額 (千円)			漁獲量 (kg)	漁獲金額 (千円)
アユ	ユ	19,500	21,350	オイカワ		150	248
イワナ		0	0	コイ・ニゴイ		300	15
アマゴ・ヤマメ		0	0	フナ		400	90
ニジマス		0	0	その他魚類		550	1,465
サツキマス		50	160	その他水産動物		2,700	2,720
ウナギ		200	700	貝類		0	0
ウグイ		0	0	合計		23,850	26,748

(資料) H30岐阜県統計書

2 ホタル保護対策事業

昭和30年代までは、市内の中小河川でホタルが自然発生、夏の風物詩として親しまれていましたが、生息環境の悪化などによりその姿が見られない時期もありました。

しかし、地域住民による自主的な保護増殖団体が保護・増殖に努めたことなどにより、板屋川・伊自良川などでホタルが復活してきました。

本市では、こうした保護増殖団体を中心に活動支援を行い、ホタルの保護・増殖に努めています。



ホタル